

「安心！子どもとパパ・ママ サポート」事業
プログラム名：「YMCAこども広場」
事業報告書

実施団体  社会福祉法人大阪YMCA

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

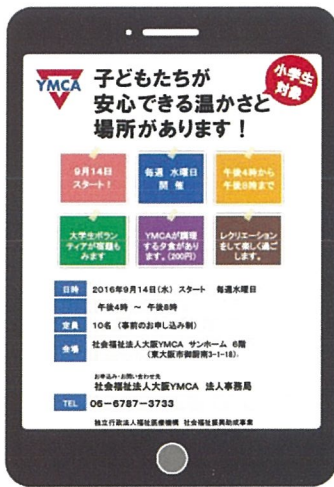
社会構造が変化したことによって、子どもの育つ環境も大きく影響を受けています。格差社会が拡大しているとも言われる日本で、子どもが教育を受ける機会やその内容にも差が生まれ、学力が固定化されつつあるという情報もあります。昨今増加している「子ども食堂」と呼ばれる事業は、子どもたちが安心できる場所と温かい食事の提供、人とのつながりを生み出すという大きな意義があります。社会福祉法人大阪YMCAは1997年に特別養護老人ホームサンホームを開設し、今日まで20年間にわたって、高齢者の相談支援、介護支援の機関として歩んで参りました。また2006年からは大阪市西区に認可保育園を開設し、さらに、子育て支援事業「ぶどうの木」を大阪市の委託を受けて行っています。

昨年、子ども食堂の開設や開設後の課題を、いくつか取り上げている報道を目にしました。①事業を定期的に行うことができる施設が少ない、②親の相談に対応する人材確保が難しい、③子どもの対応ができる人材確保が難しい、という内容でした。私たちは施設内に地域交流スペースと調理設備を持ち、地域包括支援センターをはじめとした相談職員と管理栄養士や調理職員を有していることは、これらの課題をすでにクリアしていることに気が付きました。保育園事業で培った子どもへの視点と、高齢介護事業における相談支援のネットワークを生かして、特に放課後に一人になる子どもの支援を行うことを考えました。YMCAサンホームは、夏休みに地域の子どもの対象にしたボランティア体験や、地域のお祭りで子どもを対象にした模擬店を出店するなど、高齢者施設の職員でありながら、子どもへの関心が高い職員が多いことも、この事業を行う後押しとなりました。

これまでサンホームが受けた相談の中には、生活の安定が図られるための継続的な支援が必要だと痛感する事例がいくつもあり、地域や関係機関とのネットワークの中で取り組んで参りました。この事業においても、民生委員や連携機関、大学生ボランティアの方々と共に委員会を開催し、事業の目的や内容を確認共有して事業を始めました。また中間評価会や年度報告会を開催し、地域の課題や状況の共有を行いました。さらに介護事業者連絡会や社会福祉協議会、福祉事務所などの行政機関でも事業の周知を行いました。

特別養護老人ホームサンホームに、今、子どもたちの元気な声が響きます。独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成が、子どもたちにとって安心して楽しく過ごす場となり、保護者の方の生活を支えるこの事業を始める機会となりました。心から感謝申し上げます。

◆ こども広場の案内チラシ



近隣の小学校や民生委員会、主任児童委員、学童の方々へ、情報提供をお願いしました。また行政機関にも地域の方への情報提供としてチラシを置かせていただきました。

◆ 子どもたちの様子

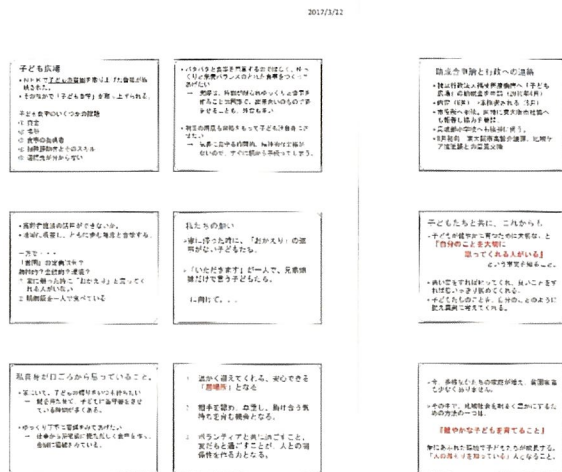


◆ 夕食



◆ 大阪府社会福祉協議会 大阪老人福祉施設研究大会

平成 29 年 2 月、大阪府下の高齢者施設役員、職員へ向けて事業発表を行いました。
(資料抜粋)



◆ アンケートから (抜粋)

事業へのご意見やご感想を、保護者の方にお聞きしました。

- ① 費用が発生してもかまわないので、家では経験できないことやクラフトなどを行ってほしい。
- ② 様々な年齢の子どもたちやボランティアの大学生と過ごすことが、社会性を育み思いやりの気持ちを育てる貴重な機会だと思っています。
- ③ 高齢者と接する機会は良い経験であり、また地域の中で育っていくことは子どもの成長の大きな力になると信じています。
- ④ 苦手な野菜や魚を食べる機会となり、みんなでおいしく食べてほしいと思います。

◆ 今後に向けて

大阪YMCAは、社会課題に取り組む上で大切にすることを「大阪YMCAの使命」として明文化し、そこには「未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます」とあります。参加する子どもたちが、力強く成長し、日本の未来を築くことができるように、独立行政法人福祉医療機構の助成によるこの事業が、その一助となることを願います。地域の温かいご協力を得て、毎週水曜日の夕方、子どもたちが元気に集っています。ボランティアの大学生と共に宿題をして、遊び、温かい雰囲気の中で夕食を食べています。そして必ず保護者の方に迎えに来ていただき、利用中の様子をお伝えし、日々の様子をお聞きしています。その地道な取り組みが信頼関係を育み、地域の中でも認知され信頼されることに繋がります。まだ始まったばかりです。これからも子どもたちと保護者の方、そして地域と共に歩んで参ります。